

タイトル : 災いを遠ざけて
聖書箇所 : 詩編 121編7節

【新共同訳】

Psa 121:7 主がすべての災いを遠ざけて
あなたを見守り
あなたの魂を見守ってくださるよう。

8/27(木)のメッセージの中で、「翻訳されど翻訳」という私の聖書を読む時の座右の銘をご紹介しました。新共同訳の詩編121編7節の「主がすべての災いを遠ざけて」の翻訳は、動的等価法、英語では、Dynamic Equivalence (以下、DE)、という理論を聖書翻訳に取り入れたものです。このDEは、1980年代に米国で有名になりました。私が、聖書翻訳に興味を持つようになったのは、このDEという理論を知ったことによります。DEの聖書翻訳よい例は、「雪のように白くなる」、イザヤ書1章18節です。

【新改訳2017】

イザ 1:18 「さあ、来たれ。論じ合おう。——【主】は言われる——たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。

このみことばは、キリストの十字架を信じて、神との愛の交わりがある人々の「罪からの解放」の状態を表しています。このみことばを想う時、私はいつも「雪の上に、真っ赤なインクを垂らした」情景を思い浮かべます。そして、その情景から、「真っ赤なインクの沁みが消え去って、何処を見ても真っ白な」情景へと一瞬で場面が切り替わります。私は、「雪」の白さを知っています。しかし、「雪」を見たことがない人々には、どのようにして、「雪」なる物体を説明すればよいのでしょうか。DEでは、このように、翻訳されます。

あなたがたの罪が緋のように赤くても、羊の毛のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のように(白く)なる。

以上、「翻訳されど翻訳」から、DEのお話をしました。「新共同訳聖書」は、1987年に頒布されました。その後、ほとんどのキリスト教主義の教育機関で利用されてきています。この「新共同訳聖書」には、みことばのメッセージが、人々によく伝わるように、DEを利用した翻訳の箇所が多くみられます。

今日の聖書箇所の新共同訳聖書の詩編 121 編 7 節の翻訳の何処に、DEが利用されているのでしょうか。それは、今日のタイトルとした「災いを遠ざけて」の箇所です。

【新共同訳】

Psa 121:7 主が {すべての災いを遠ざけて}
あなたを見守り
あなたの魂を見守ってくださるよう。

ヘブル語の原典には、「主があなたを見守り」とありますが、「すべての災いを遠ざけて」なることばは、記されていません。「主が見守ってくださる」とは、具体的には、どのようなことでしょうか。そのことを、新共同訳聖書では、「主がすべての災いを遠ざけて」と言葉を補っています。

「見守る」(シャーマル)¹は、旧約聖書で469回も登場する言葉です。「見守り」は、詩編 121 編 7 節の後半にも、「あなたのあなたの魂を見守ってくださるよう。」とあります。どのように、主は、わたしの魂を見守られるのでしょうか。ここには、言葉の補いはありません。その理由は、「魂」ということばの本来の意味にあると思われます。ヘブライ語の「魂」(ネペシュ)²の語源は、人間の「喉」です。「喉」食物を摂取できなくなれば、命にかかわります。「喉」が機能しなければ、言葉を発することもできません。旧約聖書で、「魂」ということばがあったら、それは、人間にとって大切な器官、「喉」であることを覚えておくと主への感謝が沸き起こると思います。詩編 17 編 8 節には、大切な器官、「瞳」を守るということばがあります。

【新共同訳】

Psa 17:8 瞳のようにわたしを守り／あなたの翼の陰に隠してください。

神様の「見守り」は、きめ細やかだということが、編 17 編 8 節からよくわかると思います。

¹ שָׁמַר

² נֶפֶשׁ

母が介護の施設に入院しています。諸事情により面会が中止となっています。先月、オンラインで面接した時には、施設の介護士の方々の「見守り」の様子を聴くことが出来ました。移動中の見守り、食事中の見守り、リハビリ中に見守り、そして、入浴中に見守り等々、非常にきめ細やかな対応です。週に2回の入浴は、この施設の売りである「天然温泉」に入り、肌が艶々と、母が言っておりました。うらやましい限りです。八王子には、温泉施設が、たくさんありますので行きたいと思うのですが、9/8 東京の感染者数 170 人、八王子市の9月に入ってから感染者数 24 人というデータを見ると、「不要不急の外出は控えよう」と自粛生活への回避を自らに課しています。

今日のタイトルは、「災いを遠ざけて」であります。「主がすべての災いを遠ざけて、あなたを見守り、あなたの魂を見守ってくださる」のであります。今年の春の頃のことですが、イスラエルでは、新型コロナウイルス感染予防に対して、保守的なユダヤ教のラビが、「マスクを会堂ですることを拒否しました」、「主の見守りがある」と信じていたからでしょうか。その結果、そのラビたちが感染してしまったとニュースが流れました。